

昨年12月27日の夕方遅く、

摂津市にある関大北陽（大阪

市東淀川区）の室内練習場。

練習終わりの「終礼」で、当

時2年だったマネジャーの前

田花音（3年）が円陣を組む

選手たちの前に出た。

全員の前で話すのは、記憶

のかぎり初めて。数十人の選

手の視線を感じながら、懸命

に言葉を紡いだ。

「最近みんなを見てて、

『ありがとう』とか『いただ

きます』が減ってると思う。

私に言ってるのはいいとかじゃな

くて。それが当たり前前に行き

# 礼儀ある仲間 強くなれる

## 関大北陽・前田花音マネジャー（3年）

「前田が多めの役割を抱えて  
いることが、「当たり前」に  
なっていた。」

◎ ◎ ◎

12月、前田は監督の辻本忠  
（46）に相談し、選手に対する  
今の気持ちをぶつけてみた。  
辻本からは「みんなの前で話  
したらどうや」と助言され、  
手に意識は浸透した。

今春には1年生の選手とマ  
ネジャー3人が入部したこと  
で、上級生を中心に振る舞い  
に変化が。今では「当たり前  
前」にあいさつや感謝の言葉  
が口から出る。

前田は「みんな動いてくれ  
るようになりました。でも  
私、もともと人を叱るような  
性格じゃないんです」と、柔  
らかな表情で話す。

◎ ◎ ◎

小学4年のとき、京セラド  
ーム大阪で見た西勇輝（当時  
オリックス）の投球に魅了さ  
れ、大のプロ野球ファンに。  
中学生のころには、高校野球  
部のマネジャーになると決め  
た。

コロナ禍だった2020年  
8月10日、中学3年だった前  
田は、府の独自大会最終日に  
あった準決勝、関大北陽―大  
阪学院大を自宅で見つた。関大  
北陽は三回裏、11安打14得点  
の猛攻。その圧倒的な強さに  
目が離せない。「この野球部  
でマネジャーがしたい！」。

その日から受験勉強に本腰を  
入れ、翌年春に関大北陽に合  
格した。

入学後、あの独自大会で活  
躍した先輩たちと関わる日々  
に。先輩たちはいつもマネジ  
ャーに気遣ってくれた。「強い

チームは礼儀やあいさつが徹  
底されている」。そう感じた。  
そんな先輩の姿を重ね、同  
級生や後輩にも「強いチーム  
になってほしい」と願ひ、い  
つも声をかける。

前田には心構えがある。  
「決して優しいマネジャー  
にはなりたくない。支えるだ  
けじゃなく、チームの戦力に  
なりたくないです」

今春の近畿大会府予選の5  
回戦。途中登板した投手の井  
上雅貴（3年）が1点を失  
い、不安そうな表情でベンチ  
に戻ってきた。

「1点くらい大丈夫」。記  
録員でベンチに入っていた前  
田は、拳を胸に当てるジェス  
チャーを井上に送った。コク  
リとうなずく井上は、次の回  
を三者凡退に。チームは直後  
に同点に追いつき、延長戦を  
制した。

井上は「不安な時に声をか  
けてくれる。助かっていま  
す」。前田はチームには欠か  
せない存在になった。

中3で憧れた先輩たちは府  
の独自大会で頂点の2校に立  
ったが、甲子園には出場でき  
なかった。その場所へ。選手  
たちに「連れていってもら  
う」のではなく、ともに切符  
をつかみ取りたい。|| 敬称略  
(小島弘之)



練習試合のスコアをつける関大北陽の前田花音さん＝京都市右京区